

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3471503742		
法人名	有限会社青葉メディカ		
事業所名	グループホームはるうらら		
所在地	広島県福山市青葉台1丁目10番6号		
自己評価作成日	令和 5年 2月14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと		
所在地	広島県福山市平成台31-34		
訪問調査日	令和 5年 3月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ワンフロアの為職員と入居者の距離が近く、入居者に寄り添った手厚い介護が出来る。家庭的な雰囲気。近くに主治医である青葉台クリニックもあり医療に関しては強いのかなと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の理念「一人ひとりのその人らしい尊厳ある姿を大切に」を基に、日々利用者を大切に思い、人格を尊重した対応に努め、楽しく笑って過ごすことができるよう支援に努めている。事業所では夏祭りやクリスマス会等の季節の行事や、「はるうらら喫茶店」など様々なレクリエーション活動を工夫し、利用者の楽しみと気分転換の機会や、認知・身体の機能維持へと繋げている。管理者は職員の意見を把握し、ストレス軽減や意欲向上を図り、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。協力医が近隣にあり、月2回の往診以外も、夜間・緊急時も医師の指示に従い、適切な医療を受けることができるため、家族の信頼に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	特定非営利活動法人 あしすと		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は職員が見えるよう共用のリビングに掲示している。ミーティング時に職員で理念を確認している。	職員がいつでも確認できるよう理念をリビングに掲示している。ミーティング等に理念の意識付けと振り返りをするよう呼びかけ、日々の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの為、近隣の子供園の訪問はなかった。地域の清掃活動には参加している。	町内会に加入しており、管理者が清掃活動に参加している。同事業所一階にあるデイサービスへ近隣の子ども園から園児の訪問があり、コロナ感染に気を付けながら、豆まきの様子を一緒に見ることができた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設入居を検討中のご家族等の、相談支援を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームから報告を行い、ご家族や地域の方や包括・市の職員からご意見やご要望を伺い、出来るだけお応え出来るように努めている。	コロナ禍にあるため、感染に気を付けながら、2か月毎にデイサービス職員や包括職員の参加を得て、運営推進会議を開催し、事業所の状況や活動報告と話し合いをしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナの中ですが、出来るだけ運営推進会議に出席して頂いてます。また不明な点がある時や対応困難な際には相談している。	運営推進会議時や電話などで随時相談するなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。介護保険課とはケアマネジャーが介護保険更新時などに書類提出などの手続きや報告を行なっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修を定期的に行っています。ミーティングで状況を確認し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	年2回、身体拘束に関する勉強会等を開催している。帰宅願望のある人には訴えを傾聴し、声掛けや気分転換を促す等対応を工夫している。現在、柵を使用している利用者があるが、家族への説明を行うとともに、柵を外して過ごす事ができるよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修を行い、事業所内で虐待のないように注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内で研修を行っている。活用には至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退去時を含め改定等の際は、利用者家族に直接その都度説明を行い、不安や疑問点がないか伺っている。理解・納得が得られるように十分説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者からは普段からご意向を伺い、ご家族からは来所時や運営推進会議でご意見・ご要望を伺っている。運営に反映出来るように検討するようにしている。	家族からは、面会時や電話で意見を聴き、出された意見は会議で検討し、議事録や共有ノートで共有し運営に反映している。「はるうらたより」を年4回発行し、写真と共に家族へ送付し様子を知らせている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段から職員の意見や提案を聞き、またミーティングで、意見や提案を出し合い職員全体で検討し改善できる所は改善するよう取り組んでいる。	毎月のミーティングや普段の業務内で職員の意見を聴き、ケアや行事、物品の検討などに活かしている。管理者は職員の意見を把握し、ストレス軽減や意欲向上を図り、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長への報告や相談などにより、就業環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	主に管理者が個々の職員のケアの実際と力量を把握して研修を受ける機会を確保し、働きながらトレーニングしていくことを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染を恐れ参加しませんでした。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談前からコミュニケーションを取り、不安な事や要望など伺うようにする。言葉で表現など非言語でのコミュニケーションから気持ちをくみとる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談時に不安な事や要望を聞きながらしっかりとコミュニケーションを取り、信頼して頂けるよう関係作りに努めている。		
oi		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族からしっかり話を伺い、ニーズを引き出し、他のサービス利用が必要であれば提案し対応するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の話を傾聴して、本人の尊厳を保つケアを行うように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人とご家族の絆が保たれるように、共に本人を支えていけるようにご家族とのコミュニケーションを大事にしている。ご家族と良い関係が築けるようしっかり話をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの為面会を遠慮して頂いた。Zoomや電話を進めるが断られる事が多かった。	コロナウイルス感染状況に応じて、予約制で窓越し面会を行なっている。家族との手紙のやりとりや電話で話す支援を行い、関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が交流出来るようレクや行事を行い、職員が間に入り楽しい時間を共有出来るように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後でもご家族から相談事などがあれば応じて支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の話を傾聴して、希望、意向を伺い把握するように努めている。認知症の進行により意思疎通が困難な方は表情や普段の様子から思いを汲み取るように努めている。	日常生活の場面で、利用者が選択しやすい会話を工夫し、意向の把握をしている。新聞を読む人・手作業が得意な人等、習慣を継続するよう、利用者の思いや意向を大切にしたい支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からの聴き取りの他、ご家族や入居前の担当ケアマネジャーや施設の方からも情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタルチェックをして顔色など変わりがなければ確認する。夜勤者からの申し送りを毎朝行っている。日常も見守り様子に変化あり状態によっては医療職に報告、相談する。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族からのご要望やご意向を伺い介護計画に反映している。またミーティングで課題や対応を話し合っている。	利用者・家族の意向を確認し、介護計画を作成している。モニタリングは3～6か月で行うが、状態変化した場合はその都度柔軟に対応している。必要に応じて、医師や看護師の意見を反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌に身体状況や様子を記入し日勤・夜勤帯で申し送りして情報を共有している。またミーティングの中で職員で話し合い介護計画の見直しに活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対応できるよう、多職種と連携して柔軟な支援やサービスが出来るように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	職員が地域の行事などに参加し地域との関係づくりに努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望を伺い、納得が得られた医療機関を受診出来るように努めている。かかりつけ医とは情報の共有に努め、適切な受診や看護が受けられるように支援している。	入居時に家族・本人と相談し、希望のかかりつけ医を決めている。協力医の往診が月2回あり、夜間・緊急時は医師に連絡し、指示に従っている。他科受診時は家族に連絡し、同行を依頼している。歯科は必要時往診が可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職はかかりつけ医の看護職や訪問看護師などに情報や気づきを伝えて相談し、適切な受診や看護が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、また入院中に変化あった時など病院関係者との情報交換や相談に努めている。直接病院に伺える場合は伺い病院関係者との関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について入居時に本人ご家族のご意向を伺い、その後定期的にご意向を伺うようにしている。	入居時に、緊急時の処置について、事業所でできる事・できない事を説明している。その後も定期的に、家族の意向を確認している。看取り時には、医師・看護師・家族の連携を深め、利用者の状態をこまめに連絡し、方針を共有し、チームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応について所内で研修を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練は定期的に行っています。町内会と話が出来る。	7月と11月に夜間想定で、火災避難消火訓練を利用者の参加も得て実施している。地区の消防団に、火災時の避難の支援を依頼している。地震対策として、家具の設置場所の検討や転倒防止器具を装着している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は入居者独りひとりの人格を尊重し、気持ちに寄り添うよう援助し、誇りやプライバシーをそこねない言葉かけや対応をしている。	職員は利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。入浴や排泄時の誘導はさりげない声掛けを心掛け、扉やカーテンを使用し羞恥心やプライバシー保護に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は入居者としてしっかりコミュニケーションをとり信頼関係を構築し、本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者がその人らしく暮らせるように職員は入居者一人ひとりの希望をうかがい体調を把握して個々のペースで過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	3か月に一度訪問理美容の機会を設けている。ご家族と美容室を利用されている入居者もおられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	レク時には利用者と職員と一緒に準備することもある。入居者の希望をうかがいレクで提供させていただくことがある。毎月1日は赤飯、15日は炊き込みご飯を提供させていただいている。	隣接した同法人施設で作った食事を提供しているが、ご飯とみそ汁は職員が手作りしている。調理レクリエーションでは、利用者の好みのメニューを職員と一緒に作り、食事を楽しむことができる支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態や力、習慣に食事形態を合わせて提供している。食事摂取量、水分量足りない時は申し送りや記録で職員は把握して摂取量が確保できるよう声かけや介助など支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員は口腔ケア介助行っている。義歯は毎晩職員が洗浄剤につけている。必要に応じて訪問歯科を受けられるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの訴えがあればその都度トイレ誘導している。また一人ひとりの排泄のリズムをつかみ、声かけや誘導をおこなっている。	トイレでの排泄を基本に、仕草やタイミングを見計らって声かけを行い、立位が保持できる人はトイレへ誘導している。パッド類は本人の状態に合わせて検討している。歩行や下肢の運動などを取り入れ排泄の自立にむけた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をしっかりとっていただくよう飲み物の種類を多く用意している。排便のコントロールについては主治医に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	必要に応じて入浴介助おこない、体調にも配慮をして入浴日を調整している。一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しんでいただくという対応はできていない。	週2回、体調や本人の意向に応じて入浴支援をしている。浴場で職員と一緒に歌や会話を楽しむ利用者もいる。全身状態の観察と軟膏塗布など保湿ケアを行っている。入浴を嫌がられる人には声掛けの工夫や時間を変更する等、柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調やペースに合わせて休息していただいたり、夜間眠りが浅い方はなるべく日中は起きて過ごしていただき夜間ぐっすりねられるように支援している。室内の照明や温度など環境にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医や薬剤師から情報を得たり、疑問点があればそのつど確認している。服薬後に変化があれば主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクや行事を計画して参加していただけるよう支援している。今まで家庭でされていた要領で自然と洗濯置みをされる方もおられる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染がある為外出支援は出来ていません。	コロナ禍の為、部屋の換気を行ったり、受診の際に、ドライブを兼ねて外出の機会を作るなど、感染防止に留意すると共に気分転換の機会となるよう配慮している。	来年度は、感染防止に留意しながら、日向ぼっこや散歩に誘ったり、普段行けない場所へ出掛ける機会を作る等、利用者の外出支援ができることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に関する認識がなかったり、管理ができなかったりされるため、お金を所持されておられない。希望がある物はご家族に伝えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙を希望される方がおられないため今はそのような支援はしていないが、希望があったり必要があれば検討したい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員は音、光、色、広さ、温度などに配慮し、入居者が安心して落ち着いて過ごせるように支援している。季節を感じられるよう壁面飾りをシーズンごとに変えている。	職員はコロナウイルス感染防止に留意し、加湿器の使用や定期的な換気を行うなど清潔感のある空間づくりを意識し、安心・安全に過ごせる工夫をしている。季節を感じられるようにと利用者と職員で壁紙を作成し飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでの席は入居者の気持ちや体調など配慮しながら居心地が良い席で過ごされるよう職員が工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が使い慣れたものや好みのものを持って来ていただくなどご家族と相談しながら、居心地良く過ごしていただけるよう支援している。	明るい居室には、備え付けのベッドとクローゼットが設置されている。本人が使い慣れた家具・お気に入りの写真・思い出の品々などを持ち込み、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室は花のマークにしてわかりやすいようにしてる。カレンダーや時計は見える位置に設置している。できることは自分でしていただけるよう安全面に配慮して支援している。		